

読書生活・・・読書の幅を広げ、読んだ本を友だちに紹介しよう！

附属世田谷中学校 作成

6月25日(月) 1限～4限 4クラス実施



光村図書 国語教科書 p.84～87を参考に、本校の蔵書から「友達」「生き物・自然」「戦争・平和」「部活・スポーツ」「芸術」「自分」「詩歌」というテーマで本を抜き出し、テーブルに並べる。

夏休み前の最後の国語の授業時間に、読んだ本をグループの友達に紹介することを伝えた上で、自分が読みたい本を選んでもらう。

←テーマ別に並べた本

先生からのアドバイス

- ・スピーチメモを作ろう
- ・感動したり、印象に残った場面は？
- ・どんなときに読んで欲しい本か？
- ・魅力的な言葉や表現は？
- ・どんな主人公？
- ・スピーチメモは見ないで、自分の言葉で話そう。

7月11日(水) 1限～4限 4クラス実施

グループ内での発表→

*1人3分～5分の時間で

グループ内で発表。シートに友達の発表を聞いて記入。



←選ばれた生徒がクラス全員の前で発表



その後、図書館内に、1年生が薦めた本を展示。夏休みの宿題として、友達が紹介した本、または自分が読みたい本を読み、POPを書く。POPはクラスで、キャッチコピー部門・総合部門で優秀作品を選んで表彰。

～POPを作ろう！～

皆さんも、本屋さんでPOPを見たことがあると思います。本屋さんでは、「この本をぜひ読んで」（買って！…かもしれない）という熱い思いをこめてメッセージカードを書いています。これを一般的にPOPと呼んでいます。世中の図書館でも、時々POPをつけて本を並べています。ただ、本を置いておくよりも、手にとってもらえる確率がずっと高くなるからです。

そこで、今回の課題は、夏休みの読んだ本のPOPをつくるというものです。



図書館でも参考にしている「書店ポップ術」という本があります。有隣堂書店に長年勤め、1000枚以上ポップを書き続けてきたベテラン書店員梅原潤一氏の作品と、インタビューからなる本です。梅原氏は巻頭でこんなことを言っています。

『自分が面白いと思う作品を、より多くの人に読んでほしい』というところから出発している。自分の趣味を押しつけているわけだから、ある意味、ずいぶん利己的だと思うのだが、正直、それがポップを書くことのいちばんの目的になっている。

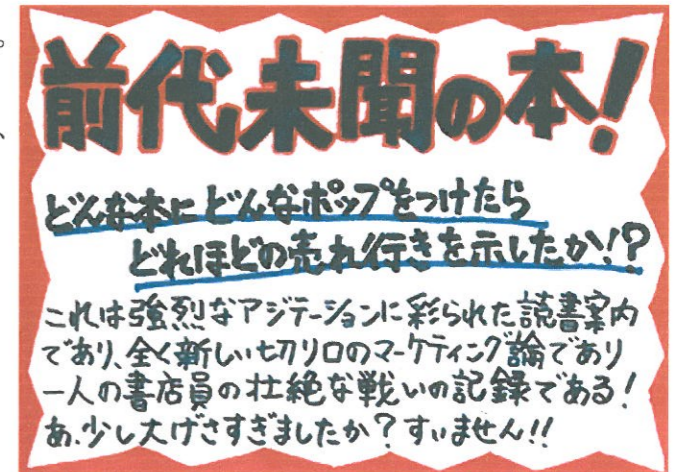
ポップは自己表現でもあるのですね。

梅原氏がポップを書くうえで、注意していることは次の3点です。

- ① 惹句(人の注意や興味をひきつけるための文句。広告などのうたい文句。キャッチフレーズ)はゴロの良さが大事。日本人の好きな五七調など、自分の思いをゴロの良さに込める。
- ② ミステリなどはネタばらしはしない。
- ③ 「感動した」、「すごく泣けた」みたいに印象だけを書かない。

要は、自分の気持ちをどうポップにパッケージして、万人に訴えるような言葉にしてアピールするかを考えるのがポップづくりの秘訣のようです。

「書店ポップ術」のポップ ↑



*できあがったポップの優秀作品は新学期、図書館に本と一緒に並べます。

POPに必ず書くことから

1. その本を的確に表す惹句(上の文章参考)
2. 書名・著者名と、自分の名前は、裏に必ず書く。(つまり書名は表に書かない!)
3. 絵を描いてももちろんOK。字だけでも、字体に工夫すれば素敵なものができます。
4. 8つのテーマのどれにあたるか、自分で判断して、左上に小さく書いてください。
(「自分」「生き物・自然」「冒険」「詩歌」「部活・スポーツ」「戦争・平和」「友達」「芸術」)